

第3学年 総合的な学習の時間学習指導略案

教科等	総合的な学習の時間	単元名	SDGs はかせになろう	本時	全13時間扱いの8時間目
学級	3年6組	授業者		教室等	3階 3年6組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 1 回目の発表の成果と課題を話し合い、今後の課題を設定することができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 今日の授業の流れを確認する。 T: 今日の授業で大切なことは何ですか。 C: 自分たちの発表をします。 T: 発表をして、何を話し合いますか。 C: 発表をしてよいところと課題を話し合います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">発表を聞いて、今後の課題を決めよう。</div>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□既習の流れから導入に入っていく。発表することでよりよい探究ができるような必然性を感じさせるように指導する。 ※今まで調べたことを自分たちなりの方法で発表できる場を設定する。</p>
<p>2. 各グループで発表をする【表現】 T: 発表で大切なことは何ですか。 C: まとめたことを、正確に伝えられるように発表することです。 C: 相手のことを意識して伝えることです。 C: 大事なことを強調して伝えることです。</p> <p>3. 感想を小グループで話し合う。【対話】 T: 発表した感想を話し合います。 C: ~グループの発表は説明が分かりやすかったです。 C: ~グループの発表は大事なことが伝わりました。 C: ~さんの発表は聞きやすく、資料も見やすかったです。</p> <p>4. 感想を全体で共有する。【対話】 T: 感想を伝え合います。 C: ~グループの発表を聞いて医療の大切さを感じました。次は医療について詳しく調べていきます。 C: ~グループの発表を聞いて、教育について関心を持ちました。次は教育についてまとめていきたいです。 C: ○○さんの発表を聞いて、環境について、より詳しく調べていきたいと思いました。 C: ○○さんの発表がとても分かりやすかったです。資料のまとめ方や発表の仕方を変えて、海の豊かさについてより詳しく調べていきたいと思いました。</p>	<p>○話題設定の工夫 ・今まで調べたことを自分たちなりの表現方法で伝えられるようにする。 ・発表し合ったことを基に、今後自分たちが表現したいことを、明確化する。</p> <p>□小グループで話し合うときは思考ツールを用いて思考を拡散させる。</p> <p>○話し合いの話型の提示 よりよい伝え合いをするために必要な話型やキーワードを精選し、使えるように共有する。</p> <p>○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定</p>
<p>5. 発表を聞いて、今後深めていきたいことを話し合う。【決定】 T: 発表を聞き合って、今後どんなことを調べていきたいと思いましたか。 C: ~グループの発表を聞いて、医療について調べていきたいと思いました。 C: ~グループの発表を聞いて、今回のテーマをさらに詳しく調べていきたいと思いました。</p>	<p>□友達の見方のよいところから自分たちの探究に取り入れられるようにする。 ☆友達の発表を聞いて、それを基に新たな課題を見いだそうとしている。</p>

【板書計画】

発表を聞いて、今後の課題を決めよう。

友達のよかったところ
・詳しくまとめられていて、分かりやすかった。
・写真と話していることが合っていて考えがよく伝わった。

今後の課題
・Aさんの発表を聞いて、医療について詳しく調べてみたいと思った。
・Bさんのまとめ方を見て、自分のテーマをさらに詳しく調べ、再度発表したいと思った。

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

既習の流れから導入に入っていく。発表をして伝え合うことでよりよい探究に深化していくことを感じさせ話題設定の必然性を感じさせる。

話し合いの話型の提示

よりよい伝え合いをするために必要な話型やキーワードを精選し、使えるように共有する。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

実態に応じてどのようなグループであつたらよりよい学び合いができるのかを考え、設定する。

活用場面の設定

話し合い、交流を通して①課題設定②情報収集③情報の整理分析④まとめ表現のサイクルを終え、自らの考えや課題が新たに更新されるようにしていく。本時はそのサイクルを汎用化し、更新されていくことの構造化を目指していく。